

令和2年 飯田市教育委員会6月定例会会議録

令和2年 6月16日(火) 午後3時 開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

【出席職員】

教育次長	今村 和男
地域人育成担当参事兼生涯学習・スポーツ課長	
	青木 純
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	湯本 正芳
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長	秦野 高彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	久保敷 武康
歴史研究所副所長	北原 香子
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋
教育支援指導主事	山浦 貞一

日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） 改めまして皆さんこんにちは。ただいまより令和2年飯田市教育委員会6月定例会を開会いたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程第2、会期の決定。

今月の会期、本日1日のみとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名。

今月の会議録署名委員は、三浦弥生教育委員、よろしくお願いいたします。

◇教育委員（三浦弥生） お願いします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認。

5月定例会の会議録のほう確認いただいてよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。それでは、承認ということでお願いいたします。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

それでは、お配りしました教育長報告のA4の紙をご覧ください。

今月は、6月議会の報告をさせていただきたいと思います。

今回の議会定例会のほう、一般質問1日ということで、通常2日ある日程の中でコロナに絞ってという質疑と応答になりました。

教育委員関係では、見ていただくように6名の議員の皆さんからの質問がありましたので、それについてどんな答弁をしたのかご報告をさせていただきたいと思います。

まず竹村議員のほうからは、ICT環境、そしてそれが揃うまでどんな対応をするのかという質問がありました。

これは学校や保護者の皆さんにもお伝えしているところではありますが、飯田市全体としては、おおよそ授業時数が 120 時間くらい足りないという現状で、1 日 6 時間やっていけば 20 日前後の遅れであるというのが大きな大雑把な考え方です。

ですので、夏休みが大体 10 日ほど短縮されるということだと 60 時間ほど回復できますので、残り 60 時間はその後の行事や様々な活動を見直すことで可能だろうということで、今、文部科学省のほうでは、できなかった部分は翌年に繰り越してもいい。最上級生である小学校 6 年と中学校 3 年生以外はというような指針は出ているのですけれども、飯田市としては特別な事情がない限り、今年度履修するよということを進めていることをお伝えしています。

ただこれを言うと、時間だけ確保すればというような捉え方にもなってはいけないし、また学校現場でそういうふうになってもいけないので、1 番大事なのは何ができるようになるかという学習指導要領で示されているその力を付けるということが一番大事であり、さらにその力を付ける前提となっていくのが、本人の主体性、内発性、そんなところが大事だと考えています。

中学校 3 年生、高校受験に対してはそうは言っても繰り越しができないので、どんな工夫をしているのかということで、各学校の中学校のほうでは、具体的にもう準備を進めておりますが、朝学習や放課後学習、さらには夏休みの補習など通常行っているものを、これを拡充して対応していきたいという状況です。

エのほうに移りまして、ICT の環境整備後は、家庭も含めてどのような活用を考えているのかということになります。

今までは学校での活用を中心に考えていたんですが、今回のコロナ禍の中で、持ち帰りを含めた家庭での学習を視野に入れて取り組みを検討しているということです。

そうすると家庭の W i - F i の環境がない家庭はどのくらいあるのですかという質問がありました。こちらのほうは飯田市で調査を行ったところ、1 割強、今児童生徒約 8 千人ですので、850 人の子供たちに今、W i - F i 環境が整っていないということが分かってきました。ですので、その W i - F i 環境が整っていない家庭には、その機器を貸し出したり、さらには通信料金の支援等についても検討しているという状況です。

こういった形で、家庭にその学校の端末が入ったり通信環境がサポートされると、やっぱり保護者への説明ということが大事になってくると思いますので、こういう点に関しては、直接また間接も含めて保護者への丁寧な説明をしていきたいと考えています。

スケジュール感ですが、キに書きましたが、一番最後のチェックですが、今のところ 11

月には取り組めるようなスケジュール感で行っています。ただその間にネットワークのほうの改修工事も進めていきますので、導入に関しては、導入する7千台をいきなりというよりは、整備ができた学校からになるのではないかなというふうには考えておりますが、一日も早い導入を目指して、それと合わせて学校の研修等も進めていきたいと考えています。

塚平議員のほうからは、今回のコロナ禍における市民生活の安全と安心の確保ということで、今回行き過ぎた正義感でデマが、また風評被害があったということについて学校現場でどういう教育をしているのかという質問がありました。

そもそもインターネットやSNSというのは非常に有用な反面、時には自身さらには他人を傷つけることがあった、危険性があるということが大事であり、これについては今、小学校・中学校で研修をしたり、情報モラルに通じるような学習活動を支援しているところでもあります。

ただ今回のコロナに関しては、これを題材に取り上げた道徳や学活活動が行われていたなあというふうに思います。たまたまですが、学校の視察に行っているときに、私が旭ヶ丘中学校、緑ヶ丘中学校を見ましたけれども、他の学校においてもいろんな学活を用意してありましたよっていうところがかなりありましたので、今回の話題を良い意味で機会として捉えた学習活動が行われたかなと考えております。

小林真一議員からは、先ほどの竹村議員と同じようにICTのGIGAスクール構想についての質問がありました。

これは今まで進んできたことと何が違うのかというような視点もあったわけですが、大きな方向性としては、今、学んできた主体的・対話的、深い学び、それに連動するように学びを一人で学ぶのではなくて教え合ったり学びあったり、協働化の視点、そして個別最適化といま言われていますけれども、自分が自分のペースで、そして自分が好きなところからできる。そんな区別がされているかっていうことを充実し、さらにはその個別化等、協働化を融合していく。そういう方向は大きな方向としては変わっていません。ただ変わってきたのは、家庭での学習環境というのを急速に準備しているという状況を説明しました。

特にこの間、家庭での学習の中で、予習的な家庭学習や授業等連動した学習というものが、このコロナの休校の間、ICTがなくてもそういうことが少し進んだわけですが、そういうノウハウを活かしながら、今度はいわゆるインターネットやいろいろなクラウドとタブレットを有効に活用して進んでいきたいと考えております。そのための研修というものも加速していきたいと考えているところであります。

エのところで、GIGAスクールサポーター導入の考えはという質問をいただきました。

これ国のほうでスクールサポーター、いわゆる導入に当たってのいろんなマニュアルを作成したり、環境整備の初期対応を担っている人材の導入に対しては支援がありますという補助制度があるわけですが、そういうのは使わないのかという質問です。

これに関しては、いまいまは先ほどご説明していただいた教育指導専門主査の牧先生がいるので、この取り急ぎこの役割は一部果たしてはしてはいるんですが、その後のことに関してはトラブル対応を含めてしっかりとこういった国の予算のあり方も参考にしながら学校現場のサポート支援というのは考えていきたいと考えています。

ページをめくってもらって、オのところですが、武雄式反転授業ということで、ネット上にあります小林議員のほうで佐賀の武雄のレポート等も読んでいただいたので、「今後はこういう形になるのだと考えているんですか」というような質問がありました。

もちろん、大きな流れとして反転授業っていう授業で一斉に教えて家で復習するというモデルから、ある程度、予習して授業では学び合い教え合いになっていくという大きな流れ自体はこれはもう避けられないだろうと、避けられないというか、こういう教育の流れなんだろう。

ただその時に一人ひとりのタブレットを有効に活用し、子供たちの本当に有益な学びにつながるかどうか、これはまさに先生たちの指導力にかかっているところだと思うと、そんな話をさせていただきながら、ICT教育を有効に活用しながら家庭と学校、それぞれにとって学習活動を充実させていきたいというふうに考えています。

4番目、古川議員のほうからは、子供たちの様子について聞かれました。

今日、本定例会のほうでも協議事項で小中学校の様子等の報告、さらには皆さんのご意見をお伺いする機会がありますので、そんなところでもまた詳しくお話させていただきたいなと思いますが、学校再開が3週間目になって、少し疲れた子供が一部にいるなということは各校長先生方が言っているところなので、しっかり今後も見守りながら丁寧な対応をしていきたいと考えています。

木下徳康議員のほうから、このコロナを機会に逆手にとってそのテレワークと教育移住っていうのを結び付けていくことができないかというご提案に近いご質問を受けました。

実際今回、大きな視点で捉えると働き方っていうのも日本の中で随分変わってくるんだろうなと思います。満員電車に乗って高層ビルで仕事をするというようなライフスタイルから、週2、3日通って自宅で仕事をするというようなのが一般化すると、当然、住み心地の良い田舎でっていうことも選択肢になるんだろうと思います。

その時に、ただじゃあ自然がいいから、来れるような状況ではないと思っていて、やはり

そこには魅力的な教育活動、そんな環境というのが必要なんだろうと思います。その時に上村の事例も少しお話をさせていただきましたが、今3年目を迎えた小規模特認校ですけれども、今、9人の子供が通って19人の児童の学校になっています。それは本当に地域ぐるみで魅力的な学校をつくっていかうという取り組みの成果が現れ始めているんだろうと思います。こんな期に、改めてコミュニティスクールと連携しながら地域にとって魅力ある学校づくりというのを加速させていきたと考えています。

吉川議員のほうからコミュニティの拠点として、公民館の果たす役割についてということで、この間、公民館も一部機能を停止せざるを得ない状況がありました。その中で今後の事についての質問がありました。

私の答弁としては、もちろん非常にこの間、制限せざるを得なかったこと、また顔の見える活動が停滞してしまったことは非常に残念だなと感じています。

ただその一方で、私も県公民館での活動を参加させていただいたんですけれども、インターネットを通じて料理番組をつくって、出来上がったら取りに行くというような、本当に手作り感の溢れる交流も進んでいるところもありました。

また、この場でも、この教育委員会の定例会でも報告されましたけれども、三穂の公民館では、子供たちの分館の本を届けるような取り組みとか、上郷公民館ではSNSを利用して地域の情報を発信し始めているとか、さらには20地区に関する公民館のクイズ、そんなところの取り組みも行われたということを報告しながら、新しい生活様式、新しいコロナ後の生活の中で、コミュニティのあり方として新しい発想をしながら、その重要な今までの役割をさらにワンステージ上げていくことも可能なんじゃないかなと考えています。

そんな報告をさせていただきました。

以上、議員の皆さんの意見に答弁する形で質問を終えることができました。

感想ですけれども、こういうやり取りの中で整理がされることがあるし、議員の皆さんから大事な指摘もいただいているなどそんな感じを、感覚を受けた質問がありました。

私からの報告は以上です。

何かご質問ご意見はありますか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) はい、それでは、また後ほどありましたら出していただければと思います。

日程第6 議案審議(4件)

○教育長(代田昭久) それでは、日程第6、議案審議、今月の議案審議は4件になります。よろ

しくお願いします。

議案第 56 号 飯田市公民館運営審議会委員の任命について

○教育長（代田昭久） それでは、議案第 56 号「飯田市公民館運営審議会委員の任命について」
お願いします。

秦野市公民館副館長、お願いします。

◎市公民館副館長（秦野高彦） それでは、「飯田市公民館運営審議会委員の任命について」お願
いいたします。

議案第 56 号をご覧ください。本議案は社会教育法 30 条及び飯田市公民館条例第 6 条に
基づき、教育委員会の任命を求めるものでございます。

当審議会は、社会教育法第 29 条第 1 項及び飯田市公民館条例第 5 条に基づき設置するも
のでございます。

定員の定数は、飯田市公民館条例第 6 条第 2 項により定められております。また委員の任
期は、飯田市公民館条例第 6 条第 3 項により 2 年と定められておりまして、令和 4 年 3 月 31
日までといたします。

審議会では、社会教育法第 29 条第 2 項において館長の諮問に応じ、公民館における各種
事業の企画実施について調査・審議するものとされております。

任命をいたします委員は、議案をご覧ください。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、議案第 56 号についての説明がありました。ご意見ご質問等ありますでしょ
うか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということによろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

議案第 57 号 令和 2 年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助
金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 続いて、議案第 57 号「令和 2 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定に
ついて」お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第 57 号「令和 2 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」でございます。

認定対象者につきましては、別冊で用意をいたしましたとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にて認定いただければと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま議案第 57 号の説明がありました。何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、議案第 57 号、認定ということによろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

議案第 58 号 県教委と市教委相互の任免及び人事等に関する了解事項を取り交わすことについて

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第 58 号「県教委と市教委相互の任免及び人事等に関する了解事項を取り交わすことについて」お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第 58 号をよろしくお願ひいたします。

県教委と市教委において、例年この時期に取り交わしをしているものでございまして、昨年度に引き続き了解事項を取り交わしたいとするものでございます。

裏面をご覧いただきたいと思いますが、了解事項、趣旨につきましては、県教委と市教委が全県的視野に立って教育行政の適正かつ円滑な運営を図ることを目的に、その内容といたしますと、教職員の任免、その他の進退等につきまして了解事項に基づき別紙の覚書を交わすものでございます。

3 面目が了解事項、その裏面が覚書でございます。覚書でございますけれども、昨年度と変更点等はございません。

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、議案に関して何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは議案第 58 号、承認ということでもよろしくお願ひいたします。

議案第 59 号 学校運営協議会委員の任命について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第 59 号「学校運営協議会委員の任命について」お願ひします。

桑原学校教育課長、お願ひします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第 59 号、「学校運営協議会委員の任命について」お願ひをいたします。

学校運営協議会の委員につきまして、浜井場小学校から 1 名追加ということで学校長から推薦がありました。飯田市学校運営協議会規則第 7 条第 1 項の規定により任命いたしたくご提案をいたします。

任期につきましては、令和 3 年 3 月 31 日までとなります。

以上でございます。よろしくお願ひします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、議案第 59 号の説明がありました。ご質問、ご意見等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでもお願ひいたします。

以上を持ちまして、今月の議案審議を閉じさせていただきます。

日程第 7 協議事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第 7、協議事項。

最近の小中学校の様子について

○教育長（代田昭久） 今月の協議事項として、「最近の小中学校の様子について」情報共有、さらには意見交換ができればと思います。

議論に先立ちまして状況について、湯本学校教育専門幹お願ひします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） それではお願ひします。

1 枚、教育委員会資料、学校の様子についてまとめさせていただきました。いくつかの学校を回らせてさせていただきまして、校長先生あるいは先生方に聞いた中で、今わかって

いる状況を説明したいというふうに思います。

本日、6月ですけれども、臨時休校が開けてそれから3週間ちょっとたったところでございます。各学校では感染症拡大予防の対策等をたてながら児童生徒の安全・安心に配慮して学校生活を行っていますことを感じました。

複数の校長先生方から言われたのは、学校再開後の非常に子供たち元気がないということを書いておりました。やっぱり3か月近くにわたって休んでしまったのが大変だったのかなと思いました。「おはよう」ってあいさつをかけてもなかなか元気に、それまでは「おはようございます」ってすぐに元気にあいさつしてくれたような子供も、なかなか元気な声が出ないということを書いてました。それが2週間3週間経ったうちに、ようやく元の元気が戻って来たなという話をしてくださいました。

ってということで、少しずつですけれども、元の学校生活が取り戻せるような状況になって来ているかなということを経験された話の中から伺い知ることができました。

それですけど、やっぱり児童クラブを通っていた子供たちというのは、そのまま元気のままだった。やっぱり学校の毎日来ていることは、いかに大事かなってということをそういった校長先生方の話の中から伺うことができました。

それから不登校だった生徒も休校明け元気で頑張ってきているという話も聞けました。それから先ほど教育長の話にもありましたけれども、一部の生徒に疲れている様子も見られませんが、うんと目立って欠席があるような状況ではないというようなことを私が聞いた限りでは校長先生方もおっしゃってました。

職員ですけれども、写真にもありますけれども、消毒の作業等が入っております。それで普段よりもそういった作業があつて大変なんだけれども、休校中の職員の表情に比べると、学校が開けてからの職員の表情のほうが、何か生きいきしているなということを経験された話からおっしゃっております。やっぱり子供たちが居ての学校生活だなということを経験された話からおっしゃってました。

休校中には職員も普段できないような教材研究等を行いながら授業に備えていたというようなことでもあります。

概略ですけれども、写真の説明を少しさせていただきます。1番のところですけども「3密を避けてマスクをしての授業」という形で、このような形で、席が離れてそれで前を向いて授業をしているというような状況であります。それから2番のほうは、1つひとつこうやって椅子を消毒している様子、最近、次亜塩素酸水のほうがあんまりまだコロナに本当に効くという証明がまだでていないということがありましたけれども、次亜塩素酸ナトリウムのほう

を薄めて使ったりだとか、界面活性剤の入ったような洗剤、あるいはアルコールですけれども、それぞれ工夫して消毒に取り組んでいるということでもあります。

給食の配膳では、こういった簡易の手袋をして配膳している学校もあります。それから4番のほうでは、これは大きな学校ですけれども、廊下へ配膳台を出して廊下で配膳をして、それから子供たちが自分の席へ持って行くというようなことで、密になることをなるべく避けたというようなことも工夫しておりました。

裏面へいきます。小学校一年生の子ですけれども、このように学校職員が入って、子どもたちは席について、まだ学校職員が配膳しているというような状況が続いているところがあります。

それから食べている様子ですけれども、非常に悲しいんですけれども、全員、前を向いて無言給食というような感じで、ちょっとやっぱり食が、普段だと話しながら食べるもんで食が進むんですけれども、全然、話せないもんで普段より食がやっぱり細いかなっていうことを感じている職員がいました。これも気持ちはわかるなということも思います。

それから7番8番ですけれども、これはオンライン会議システムを使った生徒総会の様子です。7番が執行部の衆がいる部屋で、8番が教室のほうの様子ですけれども、先ほどもICTの導入の話がありましたけれども、こういった形で中学校の半分くらいは、もうオンラインシステムで会議ができるという状況が用意できています。

やっぱり中学校は、技術科の職員がいますので、こういったことはやっぱり言わなくても自分たちで考えてできるような環境をつくっていくというようなことがありますので、ぜひぜひこういったもの先生方の、更に見識を高めていただいて、先ほどありました「小中連携・一貫教育のほうで、こういった研修の場で広げていってもらえると良いんじゃないか」という意見もありましたので、これが使えると思います。中学校の教員、得意なのがいますので、そういったところを活かしながら、また無理のない範囲でこういった研修ができればいいのかなと思いました。

9番のところですけど、電子黒板のほう、こういった授業でも積極的に活用している姿がありました。

10番ですけれども、入口を開けて、外を見てもらうとわかると思うんですけど、窓も10センチくらい開けます。ベランダの窓を。それでエアコンが入ってました。それで扇風機も回ってました。このような環境で、今暑さ対策とコロナ対策と両方をしながら、それがたぶん今年の夏のスタイルだなというふうに思います。このように配慮して、結構、人数がやはり入っちゃう教室もあるんですけれども、その中で十分気を付けながら授業を行っている、

ということで学校で様々な工夫をして対策を行っていることを感じました。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ただいま学校教育専門幹のほうから最近の学校、開校後です。学校の様子について報告をいただきました。

委員の皆さんから何かご質問、またご意見等があればご発言いただければと思いますがいかがでしょうか。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。学校の様子が本当によくわかりました。

質問は「一部の生徒に疲れている様子が見られた」ということのお話がありましたけれども、具体的にどういった症状なのか、様子なのか、お分かりになれば教えていただきたいと思えます。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） それこそ本当に風邪症状とか腹痛とか、よくあることなんですけれども、そういう症状で休んでいるのが、いつも不登校とかそういう生徒じゃなくて、本当に、だから普通の生徒で、教室に通ってきている子供の中にもそういう子供が出ているという話を聞きました。

◇教育委員（三浦弥生） 身体症状が出ているという。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） 身体症状出ている。

◇教育委員（三浦弥生） 出ているってということですか。

○教育長（代田昭久） はい、私も同じように先生から聞いたのは、割り合い普段休まないのにふと休んだ子がいて、聞いてみると「何か疲れちゃったみたい」というような報告があるというのでも聞きましたので、だから全体と言え、そういう子供たちからするとどうかっていうコメントがありましたけど、個別には出ているのかなあと思えます。

上河内教育委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） はい、ありがとうございます。

私のほうでも、ちょうど参観がありましたので保護者として参加してきました。参観の方法も保護者も30分以内に5人以内に、そしてマスクをして、5日間のうちのどの時間帯でもいいけれども、最初のあらかじめ「自分が行きますって行った日に来てください」というような感じで、感染対策を徹底して参観させていただきました。

子供たちにとって2、3カ月の空白時間があつたせいか、本当に子供がすごく成長をしてるっていうか、背も高くなって「こんなに時間が流れてたんだ」っていうことを感じるくら

子供たちが大きくなっているなあというふうに感じました。

全体的には、落ち着いていましたけれども、やはり。実は4月より前に、2月3月の時期から休みがあったもんですから、進級するときその前の学年、例えば中学1年生にとっては小学校の締めくくりが、高校1年にとっては中学校の締めくくりが、あまり十分にできないまま、次の学校に突入をしているという状況の中で、周りの子供たち、娘、また友達なんかのお話を聞いていると、やっぱりやっと始まったんだけど、もう体がついていかなかったりとか、新しい生活に馴染むのに精いっぱい、もうだるいとか、疲れているなあっていうことで、結構そうやって悩んだり戸惑ったりしているような子供たちっていうのがいるんじゃないかなというふうに思いました。

そんな中でも全体的には、先生たちが本当に一生懸命やってくださって、落ち着きを取り戻しつつあるのかなあっていうふうに感じて帰ってまいりました。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

保護者の立場で、ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

北澤教育長職務代理人、お願いします。

◇教育長職務代理人（北澤正光） ちょっと先のことですが、1つは修学旅行、特に6年生と中三、今延期をかけてある状態なんですけど、現段階では、各学校どのように考えているのかということも含めて先にお聞きしたいと思います。まず1点。

○教育長（代田昭久） はい、湯本学校教育専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） 明日の校長会でも話題にしたいというふうに思いますけれども、今のところ文部科学省とそれから旅行会社のつくったものが出ているんです。それを見ますと積極的にやれっていうような方向になっていますので、十分対策を練った上で、二学期以降実施をしていく方向になるかというふうに考えています。

ただ、今年度は検討の余地があるということです。今のよう状況、例えばまだ東京への往来が完全にオープンになっていない状況ですので、今は。こういう状況ですとやっぱり東京へ行くっていうことはないなというふうに考えておりますけれども、そういったその時の状況を見ながら実施していくっていう方向でおそらく考えていくんじゃないかなというふうには思っています。明日の校長会でそれぞれ校長先生の意見を聞きたいと思えます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい。

◇教育長職務代理人（北澤正光） あくまでも個人的な思いですけど、さっき上河内教育委員から

も、例えば6年生や中3生が最後の締めくくりが十分じゃなかった状況で次のステージに行っている。何か節がきちっとつけれない状態で次へ行って、もう一步の乗り切れなさを感じている。それと同じような話なのですが、修学旅行に関して言えば、旅行・集団宿泊的行事という、要するに学習指導要領で位置づけられているものの意味というものを考えた時に、何とか実施して、1つの節をつくって、一緒に過ごしている友達との思い出づくりも含めて、節をつくって次へいってもらいたいという思いが強くなります。その旅行・集団宿泊的行事の趣旨を大切にすることからすれば、行先については、東京はこのところ続けて50人近い感染者が出てきている。この状況が今後も続くようだと、小学校6年生が、東京方面へわざわざ行く意味って何なのかというようなことも考えざるを得ないと思います。その行事の目的に見合うものであれば、必ずしも県外に行かなきゃいけないのかということも含めて、例えば県内でなるべく目的が果たせるような修学旅行のあり方を検討するとか、何かやっていく必要があるのではないかと個人的には感じています。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他に何かいかがでしょうか。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） これも写真の中の、ICTの授業の様子を、先週たまたま三穂小学校に行ってみまして、校長先生がICTをかなり精力的にやられている三穂小学校ですので、学年1クラスで6クラスしかないわけですがけれども、久しぶりに授業を見させてもらいまして、電子黒板をかなり積極的に使っておられて、私の思う感想は、やっぱり児童が集中していて、黒板は黒板の良さがあると思うんですけども、今、こういう事情で電子黒板を多く使っていて、集中しているのかなあ、やっぱり画像に動きがあり、色もありますので、先生が上手に児童を導いて集中していたのかなあっていうそんな感じを持ちました。

これがだんだんまた家庭でのオンライン、そういうようにこういう画面を通しての学習にだんだんつながっていくのかなあっていうそんな感想を持ちました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

授業についてのご意見をいただきましたが、ありがとうございました。

他に何かありますでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 済みません。さっきまとめて言えばよかったんですけど、授業のほうにいったってまた違う話にいったって申し訳ない。

もう2点ほどあります。1つはプール。これも前々から話題になっていたこともあって、

前の校長会なんかの時にはプール掃除をして良いか、要はプールについてどうしようかっていうようなことが大分懸案になっていたと思います。竜東中のことは新聞の報道等でも知っているところなのですが、その後どんな状況になっているのでしょうか。

○教育長（代田昭久） はい、湯本学校専門幹、お願いいたします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） 教育委員会としては、方針として可能ならばスポーツ庁からでてくる方針にのっとってやってくださいという方向で、各学校へお知らせしています。それで今のところ掴んでいる情報ですと、全ての学校でやるっていう方向だと思います。一応、確認はしたいというふうに思いますけれども、まだ止めたという学校は聞いていませんので、やる方向で動いていると思います。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 前、確かどこかの中学校で今年はやらないという大きい学校がありましたよね。ありませんでしたっけ。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） 東中ですよ。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 東中。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） 水を抜いたという話は聞いたような気がしますのでたぶんやる方向だと思うのですけど。

◇教育長職務代理者（北澤正光） わかりました。協議っていうわけでもないのですけど、もう1点は、部活動が今どんな状況で進んでいるのかっていうことと合わせて、中学校3年生の最後の締めくくりというか、高校だと例えば選抜の高校野球を1試合に限り甲子園でやるみたいな話とか、それから県段階もいくつかの競技を、何とか最後の締めくくりにできるような試合を設けるっていう流れが加速しているんですけど、中学の場合の部活動と、それからその締めくくりがどんな形にしようとしているのかという辺りのところで、もし分かっていることがあったら教えてほしいんですけど。

○教育長（代田昭久） はい。湯本学校教育専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） はい、言ってみれば7月の4連休ありますけれども、あそこで下伊那の大会をやる方向で今動いています。先週末に個別練習が始まって、今週末から練習試合を一応オーケーという方向で動き始めてますので、これで運動部のほうは、普段通りの部活動の形になっていくかなって思います。

県立学校のほうの指針を見ましても、部活動に関しては、コロナの感染症対策はするんですけども、通常通り、もう練習試合をやっていいと、やっていくという方向が出ていますので、ちょっと進んでます。ちょっとくらいずつ早いですけれども、同じような方向で動いているかなと思います。

文化部のほうに関しては、そういった大きな大会とかそういうことは聞いていませんけれども、文化祭辺りが締めくくりになるのかなっていうふうに思ってます。そんな方向で今部活動のほうは動いています。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

◇教育長職務代理者（北澤正光） この場面はコロナのことに限っての協議ということではないんですよ。

◇教育長職務代理者（北澤正光） では、もうちょっといいですか。報告事項でもないのに、全然違う話題なのですが。今日の資料を見ると後のほうで山浦教育支援指導主事からお話があるのかなと思いつつですけど、今年から「キャリアパスポート」を国の方針で小・中・高校、全部完全に記録として残し、上の学年へ必ず引継ぎ、最後の学年は上級学校へ、要は小学校なら中学へ、中学は高校へ、その「パスポート」と呼んでいる記録自体を持ち上げていくということが制度化されていますよね。

それで去年も私、この会で質問した記憶があるんですけど、飯田市のこのキャリアパスポートへの取り組みは、去年の説明だと各学校で既に進めているので、各学校にこれは任せてありますっていうような回答をいただいた記憶があるんですけど、今年から完全に制度化されることが進んでいるという中で、実際の市内の各学校のキャリアパスポートへの取り組みの進捗状況というか、キャリアパスポートを整えて学びの中に加えているキャリア教育や、総合的な学習の時間のあり様っていうのは現実どうなんですか。

○教育長（代田昭久） 湯本学校教育専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） 正確につかんでいない部分がありますけど、用意してあるところまでは話は聞いているんですけども、それをどのように活用しているかという話はちょっと掴んでおりません。そこもまたちょっと校長会等で掴んでまいりたい。確実に学校間を跨いでもう上げていかなくてはいけないと思いますので、要録等の書類と一緒にしっかり引継ぎをしていくべきものかなと思いますので、そのようなことをまた確認していきたいと思います。

○教育長（代田昭久） はい。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 続けて良いですか。

去年、県教委の「学びの改革支援課」のほうにも質問をしたら、学びの改革支援課のほうでも、なるべく学校現場の負担にならないように、国からは5ページくらいのキャリアパスポートのひな型っていうか例示が出ているけれども、長野県の場合は、もうちょっとそれを学校の状況に合わせて簡素化して、3パターンくらいの確か例示が出ていたと思うんですけど

ど、A4版の見開きページくらい、裏表ページくらいでその記録が残せていけるような、非常に簡素化したひな型が3つくらい例示されていて「もし、まだそういうものが定まってない自治体はこういうのも参考に使ってください」みたいな説明が去年、県のほうでされてたんですけど、そんなことも含めて、完全に制度化されたことなので、飯田市の場合、キャリア教育はすごく進んでいるっていう自負もあるんですけど、ただ自負だけで済むものじゃないので、学校の進捗状況がどんなふうになっているか、把握してもらって、ある程度校長会や、またはキャリア教育の担当者会議なんかで共有をして進めていただきたいと思います。学校の負担感があるっていう言い方で県のほうも去年盛んに負担軽減みたいなことばかり言っていたんだけど、私は国がこれを高校3年まで持ち上げていくことを制度化していることには、それなりの見通しや意味があると思うんですよ。

本当にこれを活かせば、自分の将来に向けてのキャリア設計っていうか、自分の生き方・あり方を見直しながらずっと積み重ねていくためのものなので、そういう本来の意味をちゃんと踏まえた上で、これを活かさない手はないというふうに思うんですよ。

だから、ただ簡素化すればいいとか、形だけ次の学年へ持ち上げていけば良いっていうようなふうに、これを使って欲しくない。むしろそっち側の思いを込めて飯田市の場合どうなっているか。要するに、これを有効な手がかりとして位置付けて欲しいと思うんです。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

山浦先生のほうで何か補足ありますか。昨年度の状況とか。

◎教育支援指導主事（山浦貞一） 後のところで連絡で交えてもよろしいですか。

○教育長（代田昭久） はい。わかりました。

はい、今、小中学校の様子にっていうことですので、今のコロナ禍の中でのことでも構わないので何かあればと思います。

キャリアパスポートの件については大きな事業ですので、しっかり取り組んでいきたいと思えます。

他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、いろいろとありがとうございました。また今日、協議事項という形になりましたが、こういう意見交換ができれば皆さんにも学校の様子また状況を共有できればというふうに思いますのでよろしく願いいたします。

日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 日程第8、陳情審議。

今月の陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第9 その他。

（1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 教育委員報告事項、委員の皆さんからご発言があればよろしくお願ひします。

はい、北澤教育長職務代理者、お願ひします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 1つだけ、報告事項というよりも、ありがたいなと思ったことで、この間、広報いいだのところで、飯田市の奨学金の貸与の再募集が出ていました。こういう時節柄のこともあって、枠がまだもう少し残っている分を考慮して再募集をかけていただいて、今対応していただいていることは、本当にありがたいなと思います。予算の枠がある限り1人でも、もしそのことが役立つ人に貸与ができるってような流れをつくっていただいている、大切なことだと思います。感謝を込めて、ぜひ枠のある限りお願ひできればなというふうに思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

事務局のほうから何かありますか。

桑原学校教育課長、お願ひします。

◎学校教育課長（桑原 隆） はい、奨学金の審査の委員会の中で、委員の皆様からのご要望というかご提案もあって、そういうふうに進めさせていただいております。ちょっと期間も長くとったりして来月になりますけれども、なるべく多く募集することができたらなあというふうに思っております。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

せっかくなので申し出いただいで、コロナ禍の中で奨学金があれば乗り切れる子供たちがいれば一助となればなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

他に教育委員さんのほうからいかがでしょうか。

伊藤教育委員、お願ひします。

◇教育委員（伊藤 昇） 感想なんですけれども、先月の時に私は結核対策委員会のことにちよっ

と質問しまして、その話、委員会の内容を 36 人分の調査を実施した後で、その内の 7 人が精密検査だと。丁度いまコロナ禍の時なので、結核菌も戦前、戦中というか多くの命をなくして、そしてまたいろいろな歴史上の人物もたくさんお亡くなりになっているわけですが、今、そんなにあるのかなあって思っています、やはりちょっと調べましたら、20 年くらい前ですね。結核緊急事態宣言というのが日本でも出たということで、それで今でもかなりの方がこれで亡くなっているわけで、世界的にみると病院で一番の死亡が結核が断トツ 1 位だということで発展途上国を中心にそうらしいです。

それでこのコロナも収まる収束はあっても終わる終息はないような気がしますので、これだけ結核を完全に追い詰めることができない。それからペストもそうらしいんですけども、コロナもきっとそういうふうな感じで完全に追い詰めることはできないんじゃないかなあと思われま。教育委員会としては結核対策委員会のような形で学校の児童生徒とつながっていくわけです。また 1 つ人類に大きな敵になるウイルスが増えたのかなあ。それが感想です。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） さっき協議会でも触れさせていただきました。飯田市の小中連携・一貫教育推進委員会ということで、参加させていただいた感想をと思います。

上越教育大学の先生、桐生先生が言われていたことが、「ああ確かかな」と思ってお聞きしました。

言われていたことは 2 点で、報告書自体、コロナ禍の中でこの内容で良いのかなということを感じたということと、実際に説明を聞いてみると、コロナ禍の中での ICT を用いたコロナの対応をしているというところがあって資料作成が 3 月頃だったって言って忙しい中こういった形の上になったのかなというような内容と、もう 1 つは ICT 先駆的にやっていた旭ヶ丘、遠山と竜東というこのモデル地域がやはり対応が早く対応されているなというところを感じたということ言われていて、その話を聞いてなるほどというふうに思いました。

本当にコロナという通常ないものの対応ということで、現場がバタバタしているところを過ぎてきて、ああいった会議あったわけです。それであれだけの資料ということは本当にありがたいことだというふうに思います。

そんな中で、実際お話を聞いてみると、あの中にはない、そういった発表が多々あったわ

けでして、本当に桐生先生が言われるように、次のまた2回3回とまた委員会のほうが進んでいく中で本当、今回に限ってと言いますか、今回は本当にそのコロナの対策に特化したそういう小中連携・一貫そういった項目が設けられていても本当に良いんじゃないかと、そのような形で資料冊子を見させていただいております。

実際、対応しているわけですし、またその対応があればご苦労する部分とか、困難な課題とかそういうところも発表を聞いているとあるわけですし、そういうところがああいった資料の中で実際載ってきて、そういったものが発表の場で共有できると、こんな形の次回委員会が持たれば良いのかな、そんなところを感じました。

感想です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

はい、上河内教育委員。

◇教育委員（上河内陽子） はい、三浦教育委員に続いて、小中連携・一貫教育のほうに出席させていただいた感想です。

やはり飯田の中で、遠山のほうでICT、大変進んでいたということで、先生おっしゃっていたように、今回の機会、今回やったことをまとめて共有してくれるということでしたので、それをちょっと期待しております。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他にありませんでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） 委員の皆様、ありがとうございました。

（2）教育次長及び地域人育成担当参事報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「教育次長及び地域人育成担当参事報告事項」お願いします。

◎教育次長（今村和男） ありません。

◎地域人育成担当参事（青木 純） ありません。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（3）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） （3）番「学校教育課報告事項」お願いします。

山浦教育支援指導主事、お願いします。

◎教育指導支援主事（山浦貞一） それでは飯田型キャリア教育の推進についてよろしくお願

たいと思います。

資料ナンバー1の表ページをご覧いただきたいと思います。

この資料ですけれども、発達段階の縦のつながりや地域のつながりを教育プログラムで系統立てた絵でありまして、地域人として成長していくイメージを表しています。

その際重要になってくるのが、現在小中学校が取り組んでいます切れ目なく進めていくキャリア形成の飯田型キャリア教育であり、それからローカルとグローバルを一体的・系統的に学ぶLG飯田教育であります。

そして、ご案内のとおり今年度よりその部分を学校教育課が所管し、進めることになったということが了解いただけているかと思います。

そこで資料の裏ページをご覧いただきたいと思います。

この部分が、飯田型キャリア教育の推進していく仕組みというものの概要になっています。変更点ですけれども、本年度から既存組織を再編成してまいります。

具体的にはキャリア教育推進協議会をなくして、義務教育段階では、その絵にあるキャリア教育研究委員会と職場体験の実務担当者会、そして結いジュニアリーダー育成講座、これで編成して推進していきたいとそういうふうに考えております。より実務的な構成員で組織を再編成して、中学校区ごとの特色ある体験活動と、小中一貫キャリア教育をさらに充実させていきたいとそういうふうに考えています。

先ほど北澤教育長職務代理者のほうからご指摘がありましたけれども、10年ぶりに文部科学省、そして県もキャリア教育のガイドラインを見直しました。その中でのキーワードは、縦のつながりと切れ目のない学びです。

そのことを受けてキャリアパスポートが出てきたわけですが、それを受けながら飯田市でも、1枚目の絵にもありましたように、幼保・小・中・高が一貫したキャリア教育を推進していく環境整備をしてまいりたい。そういうふうに考えております。

先ほどのキャリアパスポートの件ですけれども、国のほうでは様式自体が見本として出ましたが、これについては両面で3枚、6ページのものになります。県教委のほうは学びの改革支援課のほうから2つ様式が出まして、各学年A4サイズ両面1枚の様式と、それからA4サイズ、片面2枚の様式2という形のものが出されました。

昨年度末にこれが下りてきましたので、飯田市教育委員会では間違いなく各学校に下したわけですが、このコロナの状況があったりして、各学校では、その様式を自分の学校のオリジナルに置き換えるというような作業が今現在行われているような状況かと思えます。

北澤教育長職務代理者のご指摘にもありましたけれども、その状況がどういう状況になっ

ているかということは、これからの校長会・教頭会等のところで確認をしながら、これは必ずつくっていくべきものですので進めてまいりたいと思っております。

いずれにしても幼保・小・中・高、この切れ目のないキャリア形成というところが、これからの新たな取り組みの場面でもありますので、教育委員会全体でこの部分については、進めてまいりたいと考えていますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願ひします。

◎地域人育成担当参事（青木 純） ありません。

（５）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） はい、５番、「公民館関係報告事項」お願ひします。

秦野市公民館副館長、お願ひします。

◎市公民館副館長（秦野高彦） よろしくお願ひします。

資料がございませんけれども、先ほどの教育長から報告させていただきました飯田市公民館で行われましたこの 20 地区のクイズを教育長から報告させていただきましたので、現在の状況をお伝えしたいと思ひます。

応募総数が約 200 ということで、東京ですとか他県からもいただいております、こういう状況下の中で、家族でも考えられたし、改めてお年寄りの方も地域を考える機会になったなどコメントをつけていただけて私どものほうへ回答いただいているというところでございます。

現在、まとめている最中でございますので、またご報告をさせていただきたいと思ひます。

よろしくお願ひします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

（６）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 「文化会館関係報告事項」お願ひします。

柵田文化会館館長、お願ひします。

◎文化会館長（柵田昭彦） それでは資料 2 のほうをご覧いただきたいと思ひます。２点報告させ

ていただきます。

まず「人形劇のまちづくり」の推進ですが、公演事業につきましては、コロナ禍につきましてすべての公演を中止になっております。2番の創造支援事業につきましては、人形劇講座につきましては、これを開催しております、ご覧のとおり現在週1回、月1回それぞれで実施をしております。3番目の人形劇フェスタでございますけれども、中止になっておりますが、実行委委員会のほうでは、人形劇フェスタ2021も含めて何ができるかを検討をしている最中でございます。

次のページをご覧いただきたいと思います。資料3でございますが、「飯田の文化芸術を元気にしたい会」という会が発足しましたので、それについて報告いたします。

5月27日にこの会が発足しましたが、この会は、全国的にコロナ禍の中で文化芸術活動が3月頃からすべて中止になってきておる状況です。飯田地域におかれましても同じでありまして、そういう中で文化芸術活動がまったくできなくなっているということで、それぞれの自分たち、文化芸術活動をされている団体同士での活動もままならない。

また例えば飯田の文化芸術を支えていただいた外の団体、例えばですが人形劇フェスタですと全国の人形劇人、オケ友ですと名古屋フィルハーモニーとの関連等が連絡がとれないとか、お互い運営状況がなかなか苦しい、困難な状況になっているという状況になってきたんです。

そのような中で、飯田下伊那の文化芸術の関係する現在6人の方が有志として発足しまして、「飯田の文化芸術を元気にしたい会」という会が発足いたしました。4番のところに関係する皆さんのお名前が載っておりますが、このような方々で具体的には発足しております。

取り組み内容につきましては、主に文化芸術活動の関わっている個人・団体の方々、自分たちも含めて元気にしたいということで活動をしたいという形で考えております。

現在のところ、関係する皆さんの状況を確認したいということでアンケート調査をこれからしたいという形で考えていらっしゃるようです。今後そういう形で進めていくような状況だということだけお話をさせていただきます。

右側のほうには、会の設立した時の趣意書等を参考にさせて載せておきましたのでご覧いただけたらと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（7）図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続いて、7番「図書館関係報告事項」お願いします。

瀧本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

初めに6月に入ってからの図書館のご利用の様子なんですけれども、外出を控えていた頃に比べますと、乳幼児連れの親子の方の利用が戻ってきたという具合になっています。図書館のほうでまだ読み聞かせは現在控えている状況ですが、7月から様子を見ながら人数も少ない人数で設定しながら元に戻していきたいというふうに考えています。

それから6月と7月に1件ずつ行事を予定しております。図書館では、毎年不要となりました本を市民の皆さんに、希望される方に持ち帰って使っていただくという本のリユースを行っておりますけれども、6月26日の金曜日に子供の本のリユースということで市内の保育園ですとか、学校ですとか、の皆さんに図書館で使われなくなった本を持ち帰っていただくというリユース市をする予定しております。

それから7月には11日の土曜日、12日の日曜日と15日から17日の平日に郷土資料につきましてご寄贈いただいたもので既に図書館に複数、たくさんありますものを市民の皆さんにも使っていただきたいということで、申込制で時間を区切らせていただいてリユース市を行う予定です。10時半から1時間ごとに時間を区切って30分間で選んでいただくというふうに予定をしております。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（8）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「美術博物館関係報告事項」お願いします。

久保敷美術博物館副館長、お願いします。

◎美術博物館副館長（久保敷武康） 今日は報告事項ではございませんけれども、本日長野県信濃美術館交流名品展のチラシを配らせていただきました。来月18日から8月の16日までの間、名品展を開催しますのでぜひご覧いただければということでご案内をさせていただきたいと思っております。

普段は、長野市まで足を運ばなければ見られない作品が飯田市に来るということですので、おでかけいただければと思います。また、委員の皆様にはお手元に本年度の美術博物館の展示案内も配らせていただきましたので、また時間をさいていただいて足を運んでいただければと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（９）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

北原歴史研究所副所長、お願いします。

○歴史研究所副所長（北原香子） 歴史研究所からお願いをします。

飯田アカデミア第 91 講座と歴研ニュース第 106 号をお配りさせていただいております。

初めにアカデミアにつきましてご案内します。7 月 4 日・5 日に青山学院大学の経済学部教授高嶋修一氏をお願いいたしまして、「通勤電車の社会史」をテーマにいたしましてアカデミアを開催いたします。

通常アカデミアには、従前、事前申込を不要としてまいりましたけれども、今回はコロナウイルス感染症の対策といたしまして、定員を設定させていただき、事前に申し込みをしていただきまして開催することといたしました。

現時点では東京の先生のほうからは、講座の中止とのご連絡はいただいておりませんが、今後の東京の感染の状況等には注意いたしまして、講師と連絡を取りながら進めてまいりたいと考えております。

定員にはまだまだ余裕がございますので、また足をお運びいただけたらと思います。

よろしく願いいたします。

もう 1 点、歴研ニュースですけれども、6 月 1 日号第 106 号を発行いたしました。今回は旧支所文書調査の調査状況、あと今年度の研究員の取り組むテーマ、これから行う予定のアカデミア等の日にちについて記載をさせていただいております。

また今年度、例年開催しております地域研究集会につきましては、準備に時間が要しますこととコロナ感染の関係が判明しておりませんでしたので、今年度は中止をさせていただきます。来年度、今年度予定したテーマと同じテーマで実施をさせていただくこととしております。

なお、歴研ニュースにつきまして、次回は 8 月発行の予定でございます。またご高覧いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

資料は用意してございませんけれども、ゼミ等の開催状況を若干報告させていただきます。ゼミ等につきましては、5 月 30 日からコロナウイルス感染症対策を取りながら、ゼミのほうに県外から参加したいという方もいらっしゃいますけれども、県外からの参加につきまし

ではもうしばらくご遠慮いただいて、地域内の方だけで今ゼミを開催しております。

本日までに3つのゼミの開催をしたところでありますけれども、参加者の方々はやはり開催を待ちわびておられたようでございました。今後も対策を取りながら各事業を進めていきたいと考えております。

報告は以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま学校教育課から歴史研究所、報告事項がありましたが、とおして何か質問、ご意見等がありますでしょうか。

はい。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 済みません、さっきと重なる部分ですけど、山浦学校教育支援指導主事のほうから話がありました地域人育成プログラムの表裏、非常によくまとめていただいているなあっていうふうに思います。

県に先駆けて、本当に先駆的な取り組みをしてきている飯田市のキャリア教育の部分だと思うんです。LG飯田教育もちろんですけど、小中連携・一貫教育や、それからコミュニティスクールのことや、それからふるさと学習、職場体験、福祉体験学習等、これらを全部統合したものがまさに飯田型のキャリア教育。新しい名称で言うと、地域人教育ということになると思うので、それを串のように貫いて繋いでいくのが「キャリアパスポート」、つまり体験とか枠組みはずっとあって学んでいくんだけど、それをどういうふうに学んで自分の中に内面化したかっていうところが最後の勝負だと思うんです。

一人一人の子どもが、その内面化させる何を学んだかっていうところに位置づいていくのがキャリアパスポートだと思うので、国が決めたからとか、県から簡素化したひな型が出ているからとかってという形式的・受け身的なことにはしないキャリアパスポートを、まさに先見的にやってきた飯田市だからこそ、さすが飯田市のキャリアパスポートだっていうようなものにしたいなあと思うんです。

飯田市の場合、官・民・学校が連携してすごく長い時間をかけてやってきていることなので、その辺のところを、学校にも理解してもらって、ただ形だけ残して上の学年へつなげましたというようなものにだけはしてほしくないという思いを改めてお伝えしておきます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

今のところはしっかりと受け止めて、進めていきたいと思います。

ありがとうございました。

(10) 今後の日程について

○教育長（代田昭久） 10番、今後の日程についてお願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） それでは、本日の資料の3ページをご覧くださいと思います。今後の予定につきまして、主なものについて記載をしてあります。

まず前後しますが、7月17日金曜日に予定されておりました三遠南信教育サミットでございますが、事務局から延期、中止じゃなくて延期のお知らせがありましたので、そのようにお願いしたいと思います。また時期については、今後お知らせがあるかと思しますので、計画をしたいと思っております。

7月の定例会は、15日水曜日を予定しておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

日程につきましては、以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

何かご質問やご意見ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは、ご承知いただけたと思います。

予定をしておりました日程、提案等は以上ですが、何か他にご発言ある方はいらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） ありがとうございました。

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） それでは、日程第10。

以上をもちまして、6月の定例会を閉じさせていただきます。

どうもありがとうございました。

閉 会 午後4時13分